



「物価と消費に関するアンケート」

暮らし向きは3年ぶりに悪化、世帯収入は小幅改善

Text by しがぎん経済文化センター 吉川 友

円安による輸入価格の上昇や、燃料・光熱費の上昇、消費税増税も相まって物価は大幅に上昇している。このような状況が、家計にどのような影響を及ぼしているのか。個人消費の動向を調査するために、滋賀銀行の店頭にご来店の女性を対象に「物価と消費に関するアンケート」を行った。

- 調査名:「物価と消費に関するアンケート」
- 調査時期:2014年6月11日～13日
- 調査対象先:滋賀県内の滋賀銀行本店にご来店の女性
- 有効回答数:644人

暮らし向きDI…3年ぶりに悪化

現在の「暮らし向きDI」(「良くなった」「やや良くなった」と回答した割合から「悪くなった」「やや悪くなった」と回答した割合を引いた値)は-14.3となり、前回(13年12月:-6.6)から7.7ポイント低下し、11年6月から3年ぶりに悪化した(図1)。消費税増税などによる物価の上昇を受けて、暮らし向きは悪化したと回答する割合が増えたようだ。

「今後、半年間でどうなると思うか」と見通しをたずねたところ、

「やや悪くなる」「悪くなる」と回答した割合がさらに増え、「暮らし向きDI」(同上)は-20.8と、現状(-14.3)から6.5ポイント低下する見通しである。

世帯収入DI…緩やかに改善、半年後は悪化の見通し

現在の「世帯収入DI」(「増えた」「やや増えた」と回答した割合から「減った」「やや減った」と回答した割合を引いた値)は-7.8で、前回(13年12月:-13.9)から6.1ポイント上昇した(図2)。依然

としてマイナス水準ながらも緩やかな改善となった。消費税増税前の駆け込み需要により時間外労働が各産業で増加し、足元の収入状況は改善されたようだ。

「今後、半年間でどうなると思うか」と見通しをたずねたところ、「世帯収入DI」(同上)は-13.9で、現状(-7.8)から6.1ポイント低下する見通しである。

物価DI…物価は大幅上昇、今後も高い水準が続く見通し

現在の「物価DI」(「かなり上がった」「やや上がった」と回答した割合から「かなり下がった」「やや下がった」と回答した割合を引いた値)は+85.6となり、前回(13年12月:+74.4)から+11.2ポイントと大幅に上昇した(図3)。円安による輸入価格の上昇や燃料・光熱費の上昇、消費税増税も相まって物価は大幅に上昇している。

「今後、半年間でどうなると思うか」と見通しをたずねたところ、「物価DI」(同上)は+75.1で、現状(+85.6)から10.5ポイント低下するものの、高い水準が続く見通しである。

消費税増税後の消費動向…増税後の買い控え、節約対象は5項目で3割超え

「増税後、購入を控えているもの、節約しているもの」(複数回答)についてたずねたところ、「外食費など飲食費」(49.1%)が最も多く、約5割を占めた(図4)。続いて、「衣料費」(44.4%)、「身のまわりの日用雑貨」(34.8%)、「旅行・レジャー費」(32.3%)、「食料費」(32.2%)と、5項目で3割を超える結果となった。外食費や衣料費といった「不要不急の費用」と、食料費や光熱・水道費といった「努力で節約できる費用」が上位項目を占めた。

「特になし」とする回答は15.8%と、大半の家庭で増税後に買い控えや節約を行っていることがみとれる。

買い控えの解消は7月以降

「買い控えを解消したり購入を検討する時期」(複数回答)についてたずねたところ、全項目で「当面しない」の割合が最も高いものの、「旅行・レジャー」については夏休み時期に合わせて解消していくとの回答がみられた(表)。その他の項目でも、7月以降とする回答が多くみられた。

表 買い控えの解消時期 (%)

項目	買い控え解消の時期						
	2014年4~6月	7~9月	10~12月	2015年1~3月	4~6月	7月以降	
住宅	0.8	3.1	1.5	-	-	2.3	92.4
住宅のリフォーム	2.5	9.0	1.4	1.4	-	3.4	82.8
自動車	3.6	7.3	2.0	4.0	2.6	8.6	72.8
家具・インテリア	1.8	4.3	5.0	5.0	0.7	2.2	81.3
家電製品	5.2	11.9	11.3	6.3	3.1	3.8	60.6
時計・宝飾品	1.7	3.0	3.7	1.5	0.7	2.2	87.3
服飾品	7.7	12.3	6.2	3.1	0.8	2.3	70.0
旅行・レジャー	4.3	24.5	11.9	6.3	-	7.0	48.3
サービス	5.4	2.0	1.0	-	-	2.0	90.2

まとめ

今回の調査結果では、収入の面で小幅な改善がみられた一方で、暮らし向きDIが3年ぶりに悪化となった。足元の大幅な物価上昇が暮らし向き悪化の要因と考えられる。物価は今後も高い水準が続く見通しであり、今後、収入面の改善による消費マインドの改善が、暮らし向き上昇のポイントとなりそうだ。今後の動向が注目される。

図1 暮らし向きDIの推移

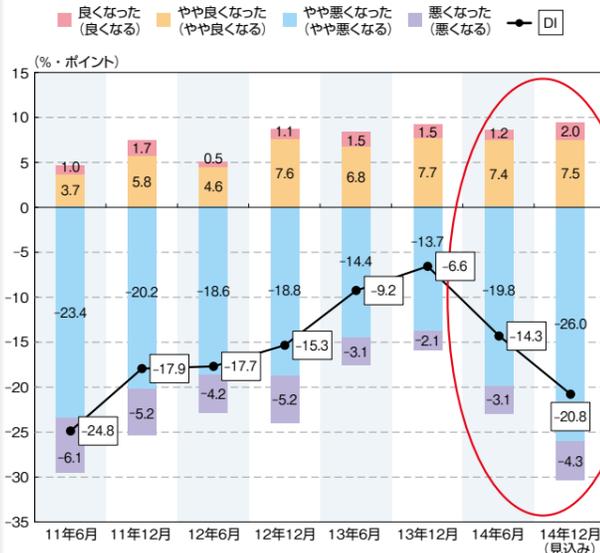


図2 世帯収入DIの推移

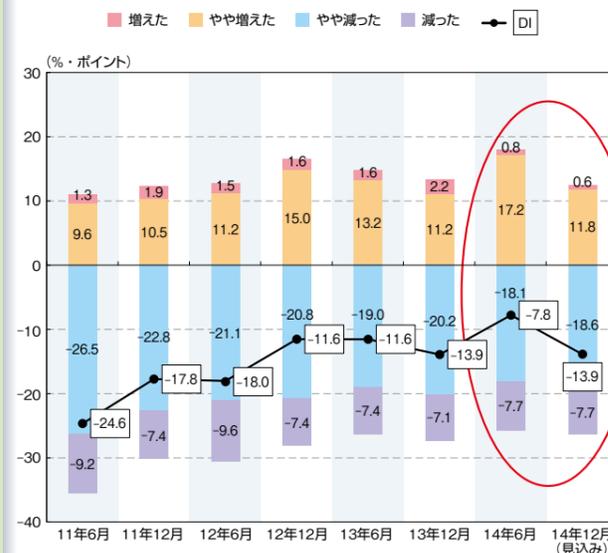


図3 物価DIの推移

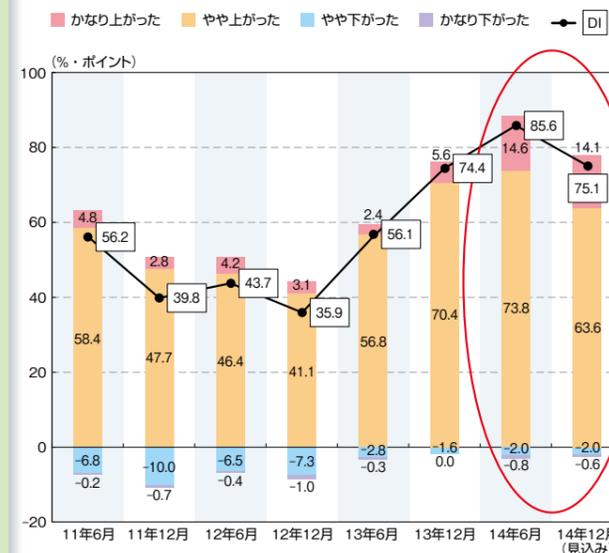


図4 購入を控えているもの、節約しているもの

